資料 9－1

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：北海道・東北

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
全道県 北海道・宮城県・福島県 青森県・山形県	【若年層献血者の確保について】	・若者を対象とした広報及び献血キャラクターを活用した啓発資材作製、配布 ・ポスターコンクールやショートメッセージの募集を通じた献血教育の推進 ・学生協力団体組織化の促進	・若者に人気のあるラジオ番組とタイアップし、番組やラジオCMを通してティーンズドナーへのPR活動を実施。 ・国から年度末に配布されている献血思想の普及啓発用教材の「HOP STEP JUMP」の活用について、教育庁が各学校長あて通知を出しているが効果的に活用されていない。 ・受賞作品を県内の各学校等に配布、CM化してキャンペーン期間中に放送 ・学生献血推進連絡会で開催しているキャンペーン等では、年々認知度も高まり、献血受付者は増加傾向。しかし、各大学内での世代交代がスムーズに行われていない。	・高校生ボランティアのキャンペーン等への参加を増やすため、各校JRCへの呼びかけを積極的に行う。 ・「HOP STEP JUMP」の効果的な活用については、配布時期を早めるなどの変更が必要であると考える。 ・学生協力団体組織化の促進については、平成21年度以降も、代表者の卒業等によって組織が減弱することのないよう組織の維持対策が重要。 ・高校献血で400mL献血を受け入れてもらうような啓発活動も今後重要になると考える。
全道県 青森県 全道県	【安定的な集団献血の確保について】	・県（保健所）、市町村、血液センターの3者が一体となって、企業等への訪問及び集団献血の協力要請 ・各事業所にアンケート実施。事業所の人数、希望日、緊急配車の可否等の調査。 ・定点献血の実施 ・県庁，市役所等での定期的な献血の実施	・新規協力事業所の開拓や協力事業所の複数回献血の実施を要請 ・小規模事業所が多く、献血車の移動時間が増えている。 ・献血ルームのない地域でも定期的に献血に協力できるよう土曜日に行うことで、より献血者を確保することができた。	・継続して、事業所に対する事前渉外の徹底を図るとともに、企業の中心的人物に対し、集中的に普及啓発活動を行い、その人物を通じて企業内部からの献血協力体制を構築できるような態勢を整備していく。 ・ボランティア活動の一環として、職専免等、献血のしやすい環境整備
全道県	【複数回献血者の確保について】	・赤十字血液センターが進める複数回献血クラブ会員の募集を通じて献血者の確保、協力要請 ・企業に対する複数回の献血の受入要請 ・県庁内インフォメーション及び市町村会議における複数回献血クラブの広報	・クラブ会員に対し、定期的に献血以外の情報（商店街のキャンペーン等）を発信し、常に献血を意識付けることができた。 ・血液型別の不足時に献血協力情報を発信し、期待された献血協力応諾率が得られた	・継続して、事業所に対する事前渉外の徹底と、複数回献血クラブの普及拡大を実践する。 ・テレビ等を活用した複数回献血クラブのPR。 ・システム変更時の周知の徹底。 ・パケット料金の問合せがある。お金がかかりにくいシステムの構築が必要。

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：関東甲信越地区

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
栃木県	【若年層献血者の確保について】	○高等学校における献血の実施 ○学生献血推進連盟「かけはし」への活動支援 ○路線バス広告 ○劇場広告（シネアド）による普及啓発 ◎新成人及び高等学校卒業者に対する普及啓発	○高等学校における献血の実施 高等学校で献血を経験することで，その後も継続して献血を行う人も多く，複数回献血者の確保の効果がある。 ○学生献血推進連盟「かけはし」への活動支援 大学生の活動を支援することで，同世代の若年層に対する普及啓発を図る効果が大きく，10～20歳代の献血者数が前年度よりも増加した。 ○劇場広告（シネアド）による普及啓発 「はたちの献血」キャンペーンを中心とした3ヶ月間（県内2か所，延べ1,800回）放映し，2～3月における10～20歳代の献血者数が前年度よりも増加した。 ○新成人及び高等学校卒業者に対する普及啓発 血液の不足する時期に合わせて，効果的に啓発することができた。	
群馬県		◎献血に関するコンピュータゲームの作成 ・高校献血協力校に対する啓発資材の送付	・献血に関するコンピュータゲームの作成 委託業者決定の際には，公募による一般審査員を含め，公開審査を行った。 今後，ゲーム公開に際して，広く県民に周知する方法を検討。 ・高校献血協力校に対する啓発資材の送付 クリアファイル40,000枚を作成し，全校生徒に配布	・献血可能年齢に達する前から，少しでも献血に関心を持ってもらうために作成。少なくとも「献血を知らない」と回答する者を減少させるため，さまざまな啓蒙活動を行っていくことが必要。 ・日常生活の中に献血という言葉・行為をいかに浸透させていくかが重要。
埼玉県		①高校生による献血メッセージの放送 ②高校訪問（保健所，市町村，血液センター，合同） ③小中高校生に対する献血出前講座の実施 ④卒業献血キャンペーン 知事・教育長連名で各県立高校長あてに，献血思想の普及啓発及び校内献血への協力について通知した。	効果として ①学校を通じた効果的な働きかけができた ②若者達のネットワークなどを活用した友達からの献血呼びかけができた ③各高校に対する献血の啓発ができた 県立高校における献血実施校数が増加した（150校中47校→150校中78校）	

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
千葉県		【県】 ①中，高校生の献血推進啓発作品（ポスター）の募集 ②公共交通機関による広告 ③成人式に配布する献血啓発用リーフレット作成 ④中学生向け献血啓発用テキストの作成 【血液センター】 小学校献血学習会（スライド，ビデオによる血液の働きや献血の意義などについて説明，施設見学）	①中学生に対して献血の重要性，必要性を認識させることができた。また，高校生を対象とした献血ポスターの募集依頼を通じ，高校生に対して献血思想の普及を実施した。 ②広く県民へ広報するために，県作成のポスターをJR車両の中吊りや駅貼りとして掲示した。 ③中学生を対象にテキストの作成や献血推進啓発作品を募集することにより，献血への理解を求め，将来にわたっての献血者の確保が期待できる。	【県】 献血可能年齢に達する前の年齢層に対して献血への理解を深める必要があることから，小学生や中学生を対象にした啓発テキストの作成と教育の一環としての献血思想の普及を要望する。 【血液センター】 小学生献血学習会のプログラムについては，魅力あるものの企画が必要であることから，平成20年度において，県こども病院見学を設定し，輸血医療現場に関する情報を提供しながら，献血の啓発を図ることとする。
東京都		①日本ラクロス協会による協力。 ②春期及び秋季において主に大学の献血会場で，グループ献血キャンペーンを展開。 ③授業時間に併せた受付時間の弾力的な運用。 ④若年層を対象とした400ml献血協力啓発看板作成。 ⑤卒業記念献血会の開催。 ⑥献血ゼミナールの開催。	①ラクロス協会の協力により多くの学生の協力が見込める（実績：受付705人） ②キャンペーンの展開で献血に関心を示し，献血を経験していただき今後につなげ，複数回ドナーとしての定着を図る。 ③事業時間の制約を減らすことができる。 ④視覚的に訴えることができる。 ⑤卒業を迎える高校3年生向けに学内献血会を開催する。 ⑥20年度においては募集範囲の拡大及びその受入体制を十分に検討する。	献血推進の広報活動には，医療の現場が若者に直接伝わるような広報も必要である。 大学・専修学校等へは赤十字の渉外担当者がサークル代表者や学生に直接広報活動に当たることはもとより，国から支援も必要である。 若年層の献血者確保と献血について，学校教育のなかで，青少年の情操教育の一環とすることも必要と考える。
神奈川県		・小中学生を対象とした献血に関するポスターコンクールの実施（平成10年度～） ・高校生を対象とした献血ボランティアスクールの実施（平成18年度～） ・県下の大学ボランティアを柱とした献血推進イベントの開催（平成16年度～）	・各種普及啓発事業において同種のコンクールを同時期に実施しているため，応募者の分散もしくは同じ応募者が何年も続けて応募する傾向にある。 ・献血ボランティアスクール 実施日数：夏休み5日間，冬休み1日間 参 加 者：のべ45名 座学や体験を通じて参加者の献血への理解を確実に深めることができた。 ・県内8大学（10サークル）が参加し，各ボランティア活動の内容をパネル展示や映像で紹介するとともに，FMヨコハマとタイアップし，「ボランティアの大切さ」を電波に乗せ，県民に広くPRした。	・少子化により，応募者が減少しつつあるが，若年層の献血への理解を促進するための重要な事業として継続していく。 ・献血現場での実体験の場であり，事務局側の指導できる体制に限りがあるが，高校生を対象とするこの事業の意味と効果を踏まえながら，着実な事業として継続していく。 ・大学献血は重要な献血源であることから，大学生ボランティアとの連携を密にすることにより，大学献血推進のための協力的基盤を築くために今後も継続していく。

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
新潟県		○高等学校における献血講演会の開催 ○高等学校における卒業献血の実施 ◎小中高生を対象とした献血ルーム見学会の開催 ○大学，専門学校等への積極的な献血バス配車	・養護教諭研修会などの場で協力を呼びかけているが，時間確保が困難等の理由で協力校は少ない。 講演会：7校 卒業献血：6校 ルーム見学会：7校 ・10代，20代の献血者の構成比は全国平均を上回っている。	
山梨県		◎中学3年生を対象とした献血啓発リーフレットの作成及び配布 ・はたちの献血キャンペーン ・学生献血の組織化（学生献血推進連絡会） ・高校献血の実施	◎前年度に行った献血に対する意識調査結果をもとに啓発リーフレットを作成し，中学3年生に配布した。 普及啓発のため，すぐに効果は検証できないが，将来に亘っての献血者確保に期待できる。	今後も，若年層を対象とした啓発リーフレットを継続的に作成していく予定である。
長野県		○高校生献血の推進 ・校長会，保健主事会議等での献血実施要請 ・高校個別訪問による献血実施依頼	各高校ともに献血の必要性は理解しているが，学校単位での献血の実施については，責任の問題等の理由により献血車の受け入れに抵抗がある。また，啓発についても時間が取れないとの回答が多い。	本年度から中学生・高校生から献血の推進に関するポスターを募集し，啓発を図ることとしている。
茨城県		①高校献血キャンペーンの実施（11月～3月） ポスターデザインコンクール 各高校への啓発ポスター・チラシの配布 高校生へのアンケートによるデータ収集 ②小学生を対象とした「夏休み親子教室」 ③高校生を対象とした血液センター，献血ルームの見学とボランティア体験 ④高校，大学の文化祭でのパネル展示とクイズ大会	①高校献血実施校　78校／132校 ②アンケート協力者　818名 ③親子教室参加者　44名 見学会等参加者　1校20名 ④実施校　高校2校，大学1校 効果：普及啓発により高校献血者は前年度より137名増加した。	
栃木県	【安定的な集団献血の確保について】	○献血組織の育成強化 ○企業等に対する複数回実施の協力依頼	○献血組織の育成強化 献血会登録制度を実施し，定期的な献血の実施及び献血会による普及啓発を図ることができた。 ○企業等に対する複数回実施の協力依頼 血液が不足する夏季及び冬季を中心に，協力的な企業等を確保することができた。	

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
群馬県		企業献血の推進（保健福祉事務所管内事業所等担当者研修会の開催，献血協賛企業活動推進事業の実施）	平成20年1月～2月の間，保健福祉事務所において各管内事業所等を対象に研修会を開催。しかし，保健福祉事務所によっては，参加者が集まらず，開催できないところもあった。 また，血液センターが企業献血実施の渉外時に献血サポーターの募集を行った（訪問企業125社）。しかし，手続きが面倒とのことで，協賛してくれた企業は52社であった。	献血協賛企業ロゴマークの社会的認知度を向上させ，ロゴマークを取得することによるメリットを高めていく必要がある。
埼玉県		血液センター（市町村・血液センター・保健所合同）による事業所訪問活動の実施	合同による事業所実績は3件で，うち1件が献血を実施し，うち1件が本年度献血実施予定	
千葉県		【県】 各種献血キャンペーンを実施するとともに，血液センターが実施する献血サポターの登録事業等に協力する。また，血液製剤の在庫状況を把握し，不足時には対応マニュアル等に基づき「緊急アピール」等を実施する。 【血液センター】 1．企業等組織的な献血の確保 ①献血協賛企業活動推進事業（◎） ②大口企業の年2回から年3回への献血実施回数の協力要請 ③400ml献血の推進 2．献血推進キャンペーンの実施等 ①愛の血液助け合い運動（7月） ②はたちの献血キャンペーン（1～2月） ③千葉県公務員職場献血推進月間（8月） ④千葉県献血推進強調月間（2月） ⑤学生サマーキャンペーン ⑥学生クリスマスキャンペーン	【県】 各種広報媒体（県民だより，市町村広報紙，在葉報道機関，BeyFM等）に献血関連情報を提供するとともに，献血会場における啓発物の配布を行いながら400ml献血及び成分献血への理解促進を図った。併せて，輸血用血液の安全性確保のため，感染症の検査を目的とした献血を行わないよう周知を図った。 ・献血サポターの登録24団体への推進を行った。 【血液センター】 ・新規企業等の開拓実施（38件登録），大口企業（3か所）の年間採血回数を年間2回から3回に増加。 ・ポスター及びちらし配布による400ml献血の必要性を訴えた（400ml献血率72.2%：前年を5.1ポイント上回った）。	
東京都		社内メールを活用し職員に周知して頂く。 事前に社内放送の原稿を作成し，献血の必要性（血液型指定等）を職員に伝える。 関連会社等に連絡をして頂き増員を図る。 未実施企業への働きかけ。 実施回数の増回。 休眠団体の掘り起こし。 献血協賛企業シンボルマークの活用，普及を図る。	・当日献血実施を忘れていた職員に連絡することができた。 ・気象状況に左右されやすい街頭実施を減らし安定的な血液確保が図れる。	企業で年間に複数回献血を実施している献血者を対象に「献血ルーム」とは異なるポイントキャンペーンを展開する。

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
新潟県		◎県経営者協会加入企業を対象にアンケートを実施 ○献血協力企業名を新聞広告に掲載	・新規協力企業の確保につながった（約30社）。 ・団体，事業所から献血実施について打診があった。	
山梨県		・企業巡回時の協力要請 ・献血名簿の作成	・新たに7団体の企業協力を得ることができた。 ・献血名簿を作成したことにより，より計画的な移動献血が可能となり，延べ325箇所において献血を実施することができた。	さらに，名簿搭載企業を増やすことに努め，献血事業の拡充を図る。
長野県		○企業献血の占める割合が高いので，渉外を充実（センター）	・企業の献血者数も減少傾向にある。 ・年間採血量の規制により配車日の設定が難しい。	センター，保健所，市町村による企業への事前訪問の実施
茨城県		①市町村献血推進事業費補助金の交付 ②新規事業所等の開拓	①市町村献血支援団体への費用助成 H19交付実績額： 5,005千円 ②新規事業所等： 54ヶ所	補助金の縮小又は廃止を検討中。
栃木県	【複数回献血者の確保について】	○複数回献血クラブ会員募集 ○健康相談事業の実施 ○成分献血ポイント制の実施	健康相談事業の一環として，「ハンドマッサージ・ヘッド・マッサージ」サービスを実施したほか，献血ルームでのネイルアートのサービス効果もあり，多くの献血者を確保することができた。	
群馬県		複数回献血クラブの登録推進	血液センターが行う「複数回献血クラブ」についての広報協力	
埼玉県		①携帯メールクラブによる呼びかけ ②葉書による呼びかけ	献血者が確保できた。	携帯メールクラブの充実
東京都		携帯電話のメール機能の活用。 採血終了時に次回の献血をお願いする。 初回献血者へのお礼状送付。	携帯メールクラブ登録者は19年10月から会員増強，予約推進キャンペーンを実施し20年3月末までに約25,000人に達した。特に2月にはルームでの献血者35,000人に会員パズルを配布し登録推進キャンペーンを実施し，約1,800名の登録を得た。メールクラブでは毎月約6,000人に成分献血を中心に依頼メールを配信し応諾率は約25%である。	携帯メールクラブの会員増強。 400ml献血献血者への入会推進。 移動採血現場での入会案内配布。

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
神奈川県		・効率的な採血計画を立てるため，企業，街頭等の見直しを行うとともに，多回数献血者への表彰，新規企業の開拓，企業への複数回協力の依頼を行った。 ・協賛企業（献血サポーター）の募集を行った。	・新規企業の開拓　50社 ・複数回協力が得られるようになった企業　19社 ・協賛企業　67社	
新潟県		○献血メールクラブ会員の拡充	・会員数　1，122人（20年3月末）	目標会員数　3，000人（21年度末）
山梨県		血液センターにおいて，献血者に対し献血登録制度・献血メールクラブについて理解を求め，血液不足時に登録者に対し，葉書やメールで要請している。	「献血メールクラブ」への呼びかけを行った結果，会員数が約700名となった。	
長野県		○はがきや電話での協力依頼（センター） 献血間隔の空いている登録者への協力要請 ○定例献血スポットキャンペーン	・新規登録者が伸びていない。 ・同じ場所，同じ月，曜日に献血を実施することにより，複数回献血がしやすくなる。	
茨城県		①複数回献血クラブの登録推進 ②複数回協力事業所の推進 ③ハガキでの協力依頼 ④移動献血でのポイントカードの配布	①登録者数　2,160人（年間登録者数：979人） ②複数回協力事業所　14事業所 ③応諾率　22.9% ④ポイントカード持参者　1,522名／16,700名	

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：東海・北陸・近畿

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
石川県	【若年層献血者の確保について】	①小学生を対象とした献血の学習と見学会を実施 ②中学生から献血教育推進 ③県内高校1年生に啓発パンフレットの配布 ④大学祭での献血キャンペーンの実施	①小学生323名（保護者含む）の参加があった。 ②中学校を対象とした献血ポスターコンクールの実施。優秀作品を献血普及啓発資材として活用。 ③献血できる年齢に達したときの、献血の正しい知識の普及啓発。 ④大学祭において啓発資材を配付すると同時に採血を実施	引き続き計画、実施の予定
福井県		・「はたちの献血」キャンペーン中に、若年層を含め安定した集客力のある大型ショッピングセンターに臨時採血所を開設 ・学生献血推進連盟の活動による献血の実施と広報活動	・6日間の臨時採血所の設置で、817人の献血実績。	・若年者の確保には有効な取組であり、21年度も引き続き計画に組み入れる予定。
岐阜県		・ リーフレットの作成 中3、高2の学生を対象にリーフレットを配布 ・ 学校関係者への協力依頼 県内の概ねすべての高校、短大、大学、専門学校を保健所担当者が訪問し、協力依頼 高等学校校長会、高等学校保健担当者会で協力依頼 ・「高校生の献血推進提案」を募集	・ 将来の献血者の安定確保に向けた啓発 ・高校生の献血に対する関心度の低さの把握（提案数：37件） 献血をした血液をどのように、誰のために使われているか等、基本的な事を知りたいとの意見が多かった。	・ リーフレットの作成及び学校関係者への協力依頼は継続実施 ・ 高等学校において、移動採血車を持ち込み高校生を対象とした献血啓発出前講座の開催
静岡県		①高校生を献血広報ボランティア「アボちゃんサポーター」に委嘱し、保健所とともに地域、学域において啓発活動や献血広報を実施した。 ②高等学校養護教諭と意見交換会を開催した。	①若年層の献血思想の定着、初回献血の実施がなされた。 ②高等学校等の連携が図られた。	高校生を献血ボランティアに委嘱し、広報活動を行うことにより、若年層に対する献血思想の定着が図られている。
愛知県		若年層に対する知識普及及び啓発	① 高校0年生全員、大学生及び新成人を対象としたパンフレットの配布 ② 小学生の親子を対象とした夏休み親子献血教室の開催 ③ 学生献血連盟との協働によるクリスマス献血キャンペーンの実施	若年層への献血思想の普及
愛知県赤十字血液センター		愛知県学生連盟加盟校19大学の献血ボランティア担当者合同による献血を実施。 各学内献血時の推進活動育成指導を実施	年3回の合同献血実施、延べ献血者数773名 学内献血実施、延べ回数51回、献血者数2,492名	献血初回者の確保に繋がる学内献血実施

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
三重県	【若年層献血者の確保について】	1　高校生、大学生を中心とした協力組織による活動 （県から連絡協議会に業務委託） 2　学生献血推進協議会の開催 3　市町成人式において啓発資財を配布	1　各キャンペーンにおける啓発活動の協力、血液センターの見学会を開催。 2　学生献血推進協議会で各キャンペーンの協力等についての意見交換会を開催。（3回開催） 3　市町の協力により、新成人に啓発ティッシュを配布。	特になし
滋賀県		・学生献血推進協議会への活動支援 ・大学等への広告協賛、勧誘窓口の設置、クラブ単位での献血の実施 ・献血学習事業	学生協議会による夏・冬・バレンタインキャンペーン等により、若年層への献血の呼びかけを実施。 クラブ単位での献血は、現在2クラブのみであり、他の部へ拡大するのが困難である。 中・高校生を対象とした、国および県の啓発資材（ポスター、冊子）を活用した啓発を実施。	学習事業の全高校での実施は困難であるため、文部科学省からの積極的な働きかけも望む。 また、授業のための先生用のマニュアルを希望する声が多い。 学習事業を低年齢（中学生）にも行ってはどうか
京都府		1　京都府学生献血推進協議会への支援と協働 2　大学等への働きかけによる大学献血の推進 3　若者向け広報媒体の活用による啓発の実施 4　子ども達と保護者を含めた献血施設見学会の実施	若年層自らがキャンペーン等を通じて献血の重要性を広く訴え、若年層の共感を得ることにより、若年層献血を推進する、また子どもの頃から献血・命の大切さを知ってもらう。	大学献血における献血不適格者に対する栄養指導等サービスの提供
京都府赤十字血液センター		①18歳からの献血体験キャンペーン 府内の全高校3年生約26,000人に献血啓発リーフレットを配布、11月末～3月にかけて献血に来られた方で希望者には献血セミナーとアンケートを実施。 ②青少年赤十字（JRC）との連携 ・JRC高校生メンバー協議会で献血セミナー実施（献血ルーム見学・呼びかけ活動） ・JRCトレーニングセンターのプログラムとして小～高校生、保護者150人に対し、献血クイズ大会を実施 ③献血ルームでの献血セミナー実施 ・夏休み期間に、小学生とその保護者対象に献血セミナーを実施 ・若年層対象献血リーフレットを作成 ④看護学生への献血啓発活動 ・第一日赤看護学校、京都中央看護学校、京都府医師会看護学校の新入生に対して、研修を実施、希望者は献血ルームにて献血。 ⑤大学生への献血啓発 ・学生用機関紙「ガクシン」への献血PR記事の掲載	①今年度から私立も含めた京都府内の全高校に配布を行った。より広く献血啓発は行えたが、昨年度に比べ、献血ルームの来所者数が伸びなかった。 今後は「配布」プラス何らかの働きかけが必要と思われる。 ②京都府支部との連携によって、JRCの活動に「献血」を組み入れる機会が増えた。研修・クイズ大会の実施は今後も継続する。 ③19年度からセンター主催で夏休み期間に献血セミナーを実施。総計112人の参加となり、実施後のアンケートも概ね良好な反応が多かった。 ④入学時期に合わせ、献血ルームで「新入生キャンペーン」を行うなど、1年生からの献血協力への意識付けに力を入れた。	

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
大阪府	【若年層献血者の確保について】	◎ 大阪府血液センターと連携し、「卒業記念献血」として高校卒業生を対象にチラシを配布し、400mL献血を推進した。 ◎ 雑誌広告への掲載を通じて啓発を実施した。	高校生に献血の重要性を訴える機会を設けることができた。 214名/3月末現在	今後とも、若者を対象とした啓発を実施していく。
大阪府赤十字血液センター		① 小学生を対象とした「献血おもしろゼミナール」の開催(平成8年より実施) ②大学生を対象としたセミナーと施設(血液管理センター)見学 ③ 高校生を対象としたセミナーと献血ボランティア体験学習の実施 ④「学生400mL献血キャンペーン」の実施 ・19.10.01～20.03.31の期間で実施 ・対象者はキャンペーン指定学校で400mL献血の協力者に対してカップ麺を配布した。	①平成19年7月26日～8月7日までの間の8日間開催・参加者数1,786人の参加(保護者を含む) ②平成20年3月14日実施 ・参加者数21人の参加(管内の学生献血推進協議会メンバーが主体) ③平成19年8月24日実施 ・参加者数10人の参加(府内の公立、私学の3校の生徒を対象) ・参加高校数が少数であった。 ④協力者数：4,000人（先着） ・記念品が好評であり、前年度比130%の実績であった	① 血液センター施設の受入体制に限界はあるものの、今後は更に教育委員会の協力を得て参加数を増加させたい。(広報関係を含む) ② 今後は、血液センター、及び行政のホームページや広報などによって、幅広く若年層の参加を呼びかけていきたい。 ③ 上記、②と同様の対応を行いたい。 ④今後、記念品に選定については、学生の意見を取入れていきたい。
兵庫県・兵庫県赤十字血液センター		◎ 平成19年度から高校生有志が文化祭等の場を活用し、同世代への献血啓発活動を展開するボランティア活動を支援している。 『18歳の献血キャンペーン』チラシの活用 平成19年11月兵庫県、兵庫県教育委員会の協力により県内県立高校3年生約3万人に「アンパンマンのエキス」や県内献血ルーム案内のチラシを配布した。	平成19年度は22校（221名）がボランティアとして事業に参加し、献血啓発活動を行った。 採血車の配車を条件に事業を実施すると申し出た高校があったが、結局、配車されなかったため、事業実施を断念するケースがあった。 “チラシ効果”としての確証はないが、兵庫県内の10代の献血者数（11月～3月）は以下のとおり。 〔単位＝人〕 16歳 17歳 18歳 19歳 18年度 359 510 1,042 1,711 19年度 344 418 1,190 1,636 18歳のみが対前年を上回っていることから、今後も実施する。	地域献血推進団体、大学生等との連携による地域ぐるみの献血普及啓発の実施 平成21年度については、チラシ配布のみでなく、併せて高等学校（学内）での献血説明会の実施を依頼する予定。 また、私立大学などからも献血時に配布希望があることから、他公立、私立高校にも活用したい。
奈良県		将来の献血を担う若者に対する献血の意義や必要性の知識普及	啓発物品配布とともに、高等学校等には生徒への献血啓発に対する理解と協力を求めているが、学校単位の「高校生献血」推進は、困難である。	学校で実施する「高校生献血」は、日常的善意として気軽に献血するきっかけとなるが、400mL献血は18歳以上であるため、効果的な学習や啓発に重点を置く。

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要（取組で重点を置く事柄を含む。）	実施結果（効果、問題点等）	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
和歌山県	【若年層献血者の確保について】	・県学生献血推進協議会への支援 ・高校文化祭、大学祭における啓発及び献血 ・ポスターコンクール実施 ・手提げバッグに県ロゴマークを使用 ◎「広げようういっしょに献血」TVスポット放映 ・「はたちの献血」キャンペーン実施 ・イベント会場での「親子献血クイズ」実施 ・高校生対象献血体験講演会開催（20年度新規）	・学生協議会が、県内献血状況を学内に掲示し献血協力を促した。 ・献血思想の普及向上に寄与。 ・献血協力への動機付けに寄与。 ・9高校119点応募、参加型啓発実施。 ・優秀作品を啓発資材に活用。 ・手提げバッグは歩く広告塔。 ・15秒TVスポット45回放映しPR。	継続実施 20年度以降中学生も対象とする。
富山県・富山県赤十字血液センター		◎献血推進広報番組「献血に行こう」の制作 県広報番組「こんにちは富山県です」 H20.1.12放映　新成人をターゲットにしたもの ◎ショッピングセンターでの献血推進懸垂幕掲示 ・映画館での献血啓発CMの上映（H17～） ・若年者献血セミナー事業	・はたちの献血キャンペーン期間中に放映 ・駅前の献血ルーム入居ビルなので学生等多くの者にPRすることができた ・15秒CMであるが徐々に浸透している（6月間） ・看護学校（2校）、短期大学（1校）、JRCトレセン（1回）4月～8月に実施	☆新高校三年生全クラスへジャンボ黒板消しを配布 ☆ポケット時刻表を活用しての広報啓発 ☆JRコンコース踏み込み広告
石川県	【安定的な集団献血の確保について】	情報の収集を行い新規協賛企業の確保に努める。	新規協賛企業・新規献血団体を確保	引き続き計画、実施の予定
福井県		・携帯電話を利用して、あらかじめ登録していただいている方にメールで献血のご案内やキャンペーン用クーポンを配信（複数回献血クラブ・血液センター独自携帯サイト）	・安定した血小板製剤の確保。	・21年度も引き続き計画に組み入れる予定。
岐阜県		・献血協力団体との協働、意見交換 ぎふ献血サポーターズクラブ（献血ボランティア団体及び企業の横断的組織）	献血者減少時期における組織的協力の確保	・継続実施
静岡県		①県庁や県の出先機関を会場とした献血を定期的に実施するなど献血に協力した。 ②献血協力団体「アボちゃん協力会」に定期的に献血情報を提供する等一層の協力を求めた。	献血に協力しやすい環境整備が図られている。	特になし
愛知県		集団献血推進のため、企業等の献血組織の育成	貢献度の高い企業等の献血組織を対象に、愛知県献血運動推進大会において知事感謝状を贈呈	組織的な献血者の確保
愛知県赤十字血液センター		優良団体、年1回の献血協力を2回以上実施する。 ・新規団体の確保を行う	従来より献血団体内（社内）の合意が得にくい状況のなか15社以上の年間2回実施を行った。 また、25社の新規団体を確保した。	新規団体の確保により充実した年間採血計画を行うことが出来る。

（注）「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。